

	2015年度FD活動	2014年度の総括
法学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度も前年度と同様、教学に関する懇談会を年間数回実施する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月4日に「今年度の入門演習の状況について」というテーマで、教学に関する懇談会を開催した。</li> <li>授業参観については、その意義や実施方法を議論したが合意に至らず、実施を見送った。</li> </ul>
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD学習会を開催する</li> <li>学外のFDフォーラムなどに積極的に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部教授会にて、2014年度後半には、「小規模クラスの授業運営」と題して構成員の授業について現状報告とピア・レビューを行った。</li> <li>1. 経済学部学外FD研修参加状況(日付順)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者: 栗原裕、塩津ゆりか</li> <li>研修名: 第20回FDフォーラム(大学コンソーシアム京都)</li> <li>日 時: 2月28日(土)・3月1日(日)</li> <li>場 所: 同志社大学今出川キャンパス</li> </ul> </li> <li>(2)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者: 葛谷登</li> <li>研修名: 第21回大学教育研究フォーラム</li> <li>日 時: 3月13日(土)・14日(日)</li> <li>場 所: 京都大学吉田キャンパス</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
経営学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)新入生歓迎会の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導</li> <li>学生FD委員の参加による学生の視点からの満足度を高めるための企画の 実施</li> </ul> </li> <li>(2)卒業生による学修成果アンケート結果に基づく議論                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が求めている教育のあり方の分析</li> <li>カリキュラム改革への活用に関する議論</li> </ul> </li> <li>(3)教授会内でFD懇談会を実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内での学生状況についての事例報告、情報交換</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入生歓迎会(4月3日開催)では、経営学科・会計ファイナンス学科から募集した学生スタッフ(学生FD委員)の協力を経て、新入生相互の交流や履修指導を中心に行った。これからも学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性、きめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。</li> <li>第10回教授会(10月9日開催)においてFD活動学習会を実施し、「学習者の学びをどう見るか？」をテーマに前原裕樹先生にご報告をいただいた。また学習会後に懇談会をおこなった。ご報告では、高等教育におけるアクティブ・ラーニングに関する理論および具体的な実践が発表され、学生の能動的な活動によって学生の学びをみとること(対話の重要性)が紹介された。その後の懇談会では、グループワークができない学生への支援方法、適正な人数、時間配分等に関する質疑応答が行われた。こうした学習会と懇談会を実施したことで参加者の授業改善につながったと考えられ有意義であったといえる。</li> </ul>
現代中国学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生(ゼミ生)へのアンケートは行い、企業へのアンケートは行わない。アンケートの実施方法や内容については今後の検討事項とする。</li> <li>新入生のアンケートは、7月実施予定とする。</li> <li>Mookムーク(インターネット上で受講できる講義)は、学部としてではなく、大学として取り組むべきであるため、学習・教育支援センター委員会で、本学部の意見として報告をする。</li> <li>授業相互見学は、6月29日(月)～7月11日(土)の日程で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種アンケートについて                             <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生アンケート・卒業時アンケートについては実施できたが、企業対象アンケートは実施できなかった。</li> <li>アンケート結果の分析検討が足りず、十分に活用できなかった</li> </ul> </li> <li>相互授業見学について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>制度としては行ったが、時間割がタイトなせいもあり、多くの見学が行われたわけではない。</li> <li>授業見学のフィードバックシステムがなく、個人間の意見交換にとどまった。</li> </ul> </li> </ul>

	2015年度FD活動	2014年度の総括
国際コミュニケーション学部	<p>&lt;英語学科&gt; 専門の異なる教員同士で相互に授業の参観を行い、授業の内容・進度・構成について意見を述べ、その結果を学科会議で報告する。</p> <p>&lt;比較文化学科&gt; 1. 学科会議における、教学や学生に関する情報交換会の日常的な実施を継続し、問題の掌握に努める。 2. 在学生に対する学科独自のリサーチを実施し、問題点を洗い出す。 3. 1, 2を受けて、特定のテーマを設定したFD活動学習会・懇談会を実施する。</p>	<p>&lt;英語学科&gt; 2014年度上記のFD活動は諸事情により報告書は作成しなかったが、各教員がFD活動に取り組んだ。例えば語学の授業でお互いに授業を参観し、その批評をメーリングリストで共有した。また嘱託助教IIの教員3名と特任教員2名が毎週ミーティングを行い、お互いの授業の進捗状況を話しあい、批評しあうという活動を行った。また授業参観はしなかったが、分野の違う教員同士が、お互いの授業の進め方を議論しあう場を設けた。</p> <p>&lt;比較文化学科&gt; 学科会議において、各教員が気付いた学生の問題点や授業運営上の問題点等を持ち寄って情報交換を実施し、対応を検討した。たとえば、他者とスムーズにコミュニケーションできない学生への対応や、スマートホンを活用した授業技術導入について検討し、情報を共有できたことは、学科として有意義な活動であった。</p>
文学部	<p>1. FM豊橋における文学部の教育・研究内容の提示を通じて、教育のあり方の検討と教員の自己研修 2. 障害学生への教員と学部の対応のあり方について、外部講師を呼んだ研修 3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 4. 新しい教育のあり方についての検討</p>	<p>1. アンケート実施によって、FM豊橋についての文学部での評価を行った。 これまでの経験についての評価は高いものの、回数を重ねる中でのマンネリ化や工夫の必要性が指摘された。内容についての検討を行う必要性が確認された。</p> <p>2. 障害学生支援セミナー セミナーを2回、木曜、教授会開催日の昼休みに行った。1回目は、障害学生の大学での対応について、2回目は発達障害学生の対応について、すでにセンターと窓口を置いている、京大と富山大の実践を紹介していただいた。教員のみならず職員の多数の参加があった。 ・2015年1月8日(木) 京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム チーフコーディネーター(助教)／村田 淳 ・2015年 2 月 12日(木) 富山大学 学生支援センター、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 桶谷 文哲氏</p> <p>3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 2014年度は3回行った。毎回10数名の参加者が出席し、分野を超えた活発な議論を行った。 【第12回】 「サクラを使わない社会的同調実験による同調要因の検討-顔記録課題を用いて-」日時:2014年6月26日 報告:井藤寛志 先生 【第13回】 「専門用語と定義」 日時:2014年10月23日 報告:山本昭 先生 【第14回】 「問題発見・課題解決探求能力の育成をめざすゼミ運営、指導実践」 日時:2015年3月5日 報告:渡邊正 先生</p> <p>4. 新しい教育のあり方についての検討 ①チーム・ティーチング、ワークショップ型授業のあり方の検討 チーム・ティーチング、ワークショップ型授業は、現代文化コースや社会学コースの授業において、実験的に行われた。 ②アクティヴ・ラーニング教育への取り組みの検討 オープンソース型授業について、下野先生が資料をもとに研究を行った(後日発表予定)。</p>

	2015年度FD活動	2014年度の総括
地域政策学部	<p>&lt;年度目標&gt;</p> <p>(1) 演習科目群における授業の改善を図る。                      (2) 学部開設4年の経験をふまえ、学部の特色ある教育の成果を振り返り課題を探る。                      (3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。</p> <p>&lt;活動方法&gt;</p> <p>(1) について                      担当教員の交流を促進し、教育の質の向上に取り組む。従来の学習法担当者会議、研究法担当者会議に加え、ゼミナールの担当者の経験交流の場を設ける。とくに研究法やゼミナールでのアクティブラーニング、PBLの経験交流を図る。</p> <p>(2) について                      ①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を話し合う。                      ②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義や課題を話し合う。                      ③アクティブラーニングやPBLの取組み成果や課題を話し合う。                      ④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。</p> <p>(3) について                      教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。</p>	<p>2014年度の地域政策学部の学部FD活動は、3本柱の年度目標を掲げ、概ね遂行することができた。これらの年度目標は、本学部の恒常的に行うFD活動内容であることから、2015年度も引き続き、同じ年度目標を掲げ、教員の資質向上を目指したい。</p>
短期大学部	<p>・独自のFD活動として、春学期・秋学期すべての基礎演習、発想・議論演習、卒業研究において、短大独自アンケートを実施する。</p> <p>・初年次教育の支援と本学での「学び」を充実させる目的から、図書館や大学記念館(東亜同文書院大学記念センター)、語学教育研究室(ランゲージカフェ)等のガイダンスを積極的に活用する。</p> <p>・教育環境や学生生活の改善と向上を図るため、学生支援に関連している事務部門及びセンター等との連携を強化し、教授会の機会を活用して、短大生を取り巻く諸課題についての勉強会や情報交換会を実施する。</p>	<p>短期大学部では、春学期・秋学期すべての基礎演習、発想・議論演習、卒業研究において、短大独自アンケートを実施した。</p> <p>また、その結果を教授会において共有し、それぞれの課題改善につなげることができた。</p>